和歌山県紀の川市

紀の川スイーツの開発

【地域の基礎データ】
人　　口：61,813 人（令和元年 12 月末現在）
高齢化率：31.6％（平成 31 年 1 月 1 日現在）
産　　業：農業（桃・柿・キウイ・いちじく）　など
【活動の基本情報】
参加学生数：12 名（１回生：４名、２回生：８名）
活 動 期 間：平成 30 年 5 月～
担 当 教 員：竹田明弘

１．活動実施の経緯

紀の川市は、もも、イチゴ、はっさくなど県内屈指のフルーツ王国としての顔を持っている。これら紀の川市の一連の活動を考慮し、本活動ではフルーツを使用したスイーツを開発することで、紀の川市に貢献することを目的として実施された。

２．活動の内容

具体的な活動内容は、MAISON FLEURIR(以下　FLEURIR)、Café　sweets Sablier(以下：Sablier)、レストラン・ブラン・メゾン(以下：ブランメゾン)の3店舗のそれぞれと共同で顧客評価の高いスイーツを開発販売することである。

本年度は、スイーツプロジェクトの 2 年目であり、1 回生(及び 2 回生 1 人)も新たにメンバーに加わったことから、年度前期は新しく加わったメンバーと、継続参加のメンバーは異なる活動を行い、年度後期からメンバーが合流するという方法で活動を運営した。

活動の結果、FLEURIRにおいてイチジクを用いたスイーツ3品、Sablierにおいてクリスマス限定のランチデザート、ブランメゾンにおいてキィウイを用いたスイーツ1品が開発・販売された。また、次年度は、小売業で販売するスイーツの開発を目指しており、その打合せも活動期間内に並行して実施した。

３．活動を通じて

紀の川市役所、FLEURIR、Sablier、レストラン・ブラン・メゾンの協力により、活動は比較的順調に進行した。今年度は、紀の川市役所の LIP 担当職員(北野氏、井上氏)も学生ミーティングに一部参加していただいた。

今年度はミーティング、ならびに協力店舗との打合せの日程を調整することが困難であった。次年度は、日程の調整と計画的な実施に加えて、開発後商品の売り上げの推移などその後の分析について課題としたい。

4．成果物など

紀の川市ＨＰより

紀の川市とは？

紀の川市は山々に囲まれ、貴志川や紀の川からの豊富な水資源と温暖な気候を生かして野菜、果物など多種多様な農作物を生産している。農業産出額全体では和歌山県内1位を誇り、トップブランド「あら川の桃」をはじめ、はっさく、いちじく、柿、キウイフルーツ、いちごなど四季折々の果物が収穫できる全国有数の果物産地である。また紀の川市の総人口は62616人で、そのうち農業就業者数は全体の18.2％と多くの人が農業に携わっている。

事前調査

・**Spss調査**：統計ソフトを使用し人気商品の共通点を分析
・**アンケート調査**：和歌山大学の学生や紀の川市役所の職員に協力していただき実施
・**事例調査**：関西圏の人気スイーツ店へ行き自分たちで共通点を見つける

このＬＩＰの活動目的

紀の川市の人口減少問題・若者流出に歯止めをかけるべく、【紀の川市＝フルーツの町】というイメージを活用。市内にあるカフェ・スイーツ店と提携しスイーツの共同開発。提携店舗が紀の川市民にとって新たな憩いの場・コミュニティ形成の場になるように願いを込めて活動している。

具体的な活動内容

ナチュール

～2019年度～
キウイや八朔をメインに使った紀の川市らしいスイーツを複数考案。その中からキウイのババロアが採用され、商品化された。当初の予定とは異なる大幅な変更などもあったが、学生らしい機転をきかせて商品化に至る。

フルリール

～2018年度の活動～
イチゴとドライフルーツを使ったクグロフを開発。ナッツやピスタチオも用いることで、異食感も感じられるようにした。
～2019年度の活動～
3つの案を提案した。試行錯誤を重ねた結果、旬のフルーツであるイチヂク、マスカット、巨峰を使った3品が完成した。

サブリエ

～2019年度の活動～
クリスマスランチのデザートプレートメニューの開発に携わった。リース案、聖書案、ツリー案の３案を提案させていただいた。何度も原案を修正した結果、クリスマスらしいリース案が完成。サブリエさんも、私たちも今回はSNSなどでの宣伝にも励んだ。

課題

時間が足りずうまく調査を活かし切れていなかったり、スイーツ開発によって紀の川市が発展しているのか分からない。そのためスイーツ発売後の客数の推移を集計する時間も設けたり、事後学習を充実させてもよいのではと感じた。